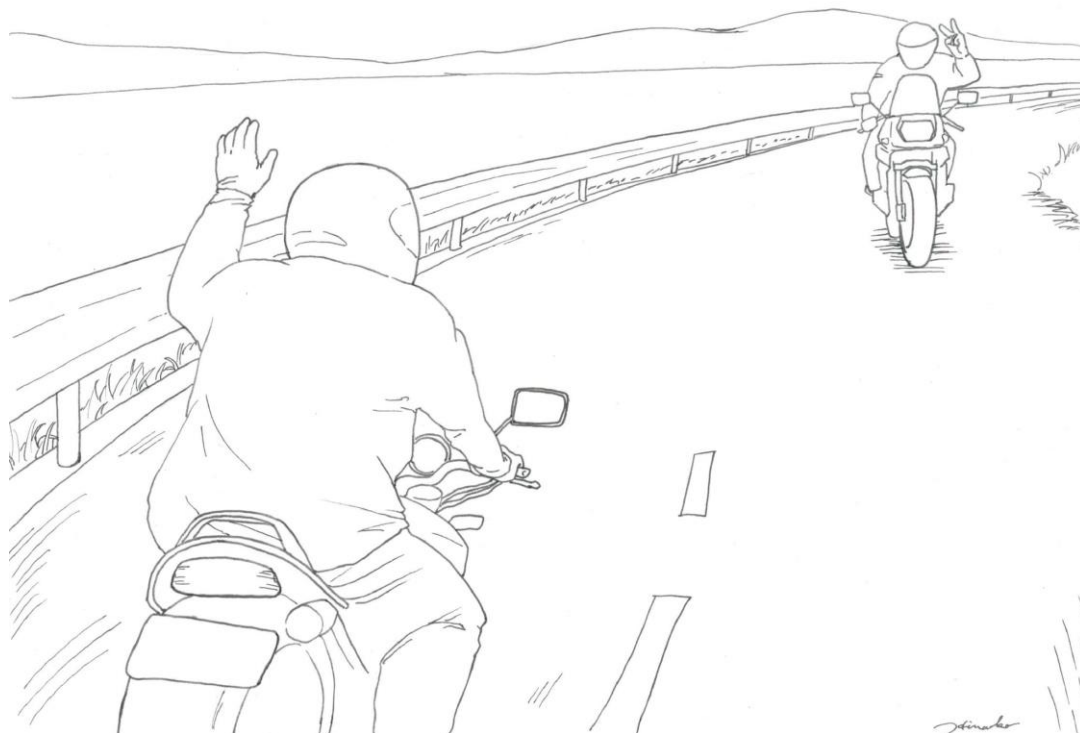


「バイクと社会」 4

ライダーの共犯者意識 –ピースサインに隠れた意味–



(Drawn by Hinako FUJIMURA)

バイクの魅力のところで、バイクは不便な乗り物だということを述べた。人は一人か二人しか乗れないし、荷物もたくさん載せられない。とても不便な乗り物だ、と。そのような不便で、「特別な」乗り物に乗っているライダー同士の、不思議な仲間意識というものがある。

初めて会った人が自分と同じ趣味だったので、すぐに仲良くなれたという経験は、誰にでもあるだろう。それと同じで、趣味としてのバイクは、仲間意識を作りやすい。しかも、他の趣味とはちょっと違う形で。

バイクで走っているときに、前から走って来るバイクに手を振られたり、会釈をされたりすることがある。知り合いだから、手を振ったり会釈をしたりしているのではない。相手は、会ったことも、見たこともない人である。相手は前方から向かってくるので、自分とは違う方向に行く。だから、その後、その人に会うこともない。そんな人が手を振ってくる。

これは「ピースサイン」というものだ。山に登っているとき、すれ違う人に軽く挨拶をすることがある。ピースサインは、それと同じようなものだ。「こんにちは」「バイクでツーリングですか」「いいですね」

「どうぞ気をつけてください」「さようなら」というメッセージを、手を振ったり、会釈をしたりして、相手に伝えている。登山なら、向こうから相手が来て、すれ違うまでに時間がある。お互いが立ち止まって話すこともできる。しかし、バイクは自分も相手も走っている。しかも、お互いが違う方向から走ってくるのだから、相手が見えてからすれ違うまで、一瞬だ。そんな短い時間に、いろんなメッセージを込めて手を振る。こんなことは、車に乗っているときにはない。

ピースサインをいつだれが始めたかはわからない。しかし、これはライダーの仲間意識によって生まれたものだと、私は思う。

ライダーA：「こんな不便な乗り物に乗って、あなたは変な人ですね」

ライダーB：「そうですね。でも、そんなあなたもバイクに乗っているじゃありませんか。あなたも変ですよ」

ライダーA：「そうですね。私たち変ですね」

ライダーB：「そうですね」

と、お互いのライダーが思っている。普通の人がない、特別なことをしているという意識をお互いが持っている。それを確認し合うのがピースサインではないかと思う。

もっと言うと、それは共犯者意識に近い。共犯者とは、いっしょに悪いことをした人のことだ。バイクに乗ることは、悪いことではない。しかし、「イージーライダー」というアメリカの古い映画のように、アウトロー（悪い人）が乗るというイメージもある。だから、ライダー同士の仲間意識には、「私たちちょっと悪いことをしていますね」という共犯者意識に近いものがあるのだと思う。実際に悪いことは、何もしていないにもかかわらず。

社会で持たれている「バイクは危ない」「バイクは悪い」というマイナスイメージが、逆にバイクに乗る人からすれば、お互いの仲間意識を生む。ピースサインの裏には、このような共犯者意識が潜んでいるのである。それもまたバイクのひとつの魅力だろう。

(1258 字)

(2020.12 Written by Toru YOSHIKAWA)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典：「たどくのひろば」(<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.